

株式会社シンドー

DX戦略

2026年7月14日

代表取締役社長 相場秀信

目次

01 代表からのご挨拶

02 DX推進の背景と目的

03 企業理念、DXビジョン

04 ビジネスモデルの方向性

05 DX戦略

06 具体的な取り組み

07 DX推進体制

08 DX人財の育成・確保

09 ITシステム環境整備、サイバーセキュリティ対策

10 DX戦略の達成指標

代表からのご挨拶

株式会社シンドーは、顧客ニーズに基づく製品開発から、材料調達、加工、表面処理、外注管理、品質検査、梱包、在庫、そして運搬に至るまで、ものづくりと流通を担う「一貫生産」を強みに、お客様の多様なご要望にお応えしてまいりました。

しかし、この不確実な時代において、今まで以上にお客様に選ばれ続けるためには、従来のアナログな管理や経験則に頼った運用の延長ではなく、デジタル技術を核とした抜本的な経営変革が不可欠であると確信しております。

そのため当社は、開発、製造、品質、物流など様々な分野において、現場の課題をデジタルで解決します。これまで個別に管理されていたデータをデジタル技術で一本につなぐことで、お客様の变化に素早く対応できる『全体最適の一貫通貫体制』を実現いたします。

さらに、AIと人の融合により、社員の創造性を磨き、やりがいを持って、働きやすい環境を構築します。当社のミッションである「輝くをつくる」の実現に向けて、全社一丸となってデジタルトランスフォーメーションを推進し、より高い付加価値を創造できる企業を目指します。



株式会社シンドー
代表取締役社長 相場秀信

DX推進の背景と目的

国内回帰や他社の高齢化廃業による代替需要の拡大、労働力不足や顧客のスピード要求の高度化など、市場環境は激変しています。当社はこれらを重要なリスクおよび機会と捉え、デジタル技術の進化を活用した抜本的な体制強化を推進します。

リスク

1. タイムリーな顧客対応力と価格競争力の低下

市場の要求スピードが高度化する中、在庫把握の遅れが迅速な納期回答や適正在庫の維持に支障をきたし、市場における優位性を損なうリスクがあります。

2. アナログ管理や手作業の残存による需要獲得の限界

国内シフトや高齢化廃業などによる代替需要が拡大する中、社内のアナログ管理や多大な手作業が残存したままでは、限られた人員で増大する負荷に対応できず、成長機会を逸失するリスクがあります。

3. 人手不足と高齢化による生産性低下

業界全体の高齢化が進む中、現場運営のデジタル化や進化する技術へ適応するための人財育成が遅れた場合、持続的な安定供給体制を維持できなくなるリスクがあります。

機会

1. Webマーケティングによる市場競争力の向上

デジタルでの情報発信力を強化し、代替需要などの市場変化を捉えて新規開拓を進めることで、市場における競争優位性を確立する機会となります。

2. データ基盤構築によるサプライチェーンの信頼性向上

在庫や生産情報のリアルタイムな一元化により、迅速な納期回答や確実な納期遵守を実現し、サプライチェーンにおけるパートナーとしての信頼性を強固にする機会となります。

3. プロセス刷新と人財育成による顧客満足度の向上

アナログ管理からの脱却と人財育成を推進し、業務の圧縮によって創出した時間を「提案型ODM」や「自社ブランド」「改善活動」といった高付加価値な挑戦ヘシフトさせることで、顧客対応力と満足度をさらに高める機会となります。

企業理念、DXビジョン

経営理念

人が集い組織を成す、組織が集結し企業を成す。企業とは人である。即ち企業は、自らの営む事業を通し、社員という財産を築き上げ、その人財と共に、企業の発展を支えてくれる顧客をはじめとした全ての人々、環境に感謝し、その恩恵に報いて行くのである。我社は、「顧客の納得する満足を提供し続ける」「社員とその家族の幸福を支える」「取引先との相互発展に取り組む」「地域・社会との共生、環境・資源の保護に努める」を4つの柱とし、永続的にその存在を求められる企業風土を創り続ける。4柱のどれ一つを失ってもいけない。無限大の器に4柱をバランスさせる事こそ、我社が目指す経営の姿である。

ミッション

輝くをつくる

DXビジョン

もっといい顔つきで働ける人を増やす

当社におけるデジタル推進は、単なるITツールの導入によるコスト削減や、部分的な効率化をゴールとはしません。日々の複雑な事務作業、部門間の情報の断絶、属人化といった現場の非効率から社員を解放し、その負担を軽減した先にある「もっといい顔つきで働ける人を増やす」ことこそが真の目的です。デジタルを賢い道具として使いこなすことで生まれた未来のための時間は、業務の改善や技術の伝承、そして企画・製品開発や地域との共創といった、より主体的で創造的な活動へと再配分します。デジタル活用によって、一人ひとりがより輝くこと。これこそが、シンダーのデジタル推進の真の意義です。全員が誇りを持って挑戦し続けられる組織基盤を築いてまいります。

ビジネスモデルの方向性

株式会社シンドーは、1947年の創業以来、新潟県燕三条の地で銅の圧延事業に始まり、ステンレス材料調達から加工、電解研磨、物流までを一貫して組み立てる強みを活かし、ものづくり企業として歩んでまいりました。

私たちは、全員で築き上げてきた既存の受託事業における安定品質と供給体制を「経営の安定基盤」として維持しつつ、さらなる進化を目指します。営業から製造・在庫・物流にいたる活動をデジタルで緊密に連携し、業務効率化を推進することで更に筋肉質な体制へと進化させ、業務負担や非効率な作業から現場を解放して、社員一人ひとりが主体的に取り組める「未来のための時間」を創出します。

このデジタル連携によって生まれた時間を以て、「川下でつくる会社から、川上で価値を提案する会社」を目指し、ミッションである「輝くをつくる」の元に経営構造の転換を進めます。具体的には、時間やデータを活用することで、「ODM提案」や「自社ブランド事業」、基盤を「改善する活動」を強化し、高付加価値を創り出すことで収益基盤を確立し、社員の豊かな生活へと適切に還元する持続可能な仕組みを構築します。

そうして、いい顔つきで挑戦し続ける人財と共に、持続可能な未来を築いてまいります。

DX戦略

01

基幹システムの刷新による データ基盤の構築

在庫や原価等の基幹業務情報を一元化し、リアルタイム情報を共有可能とすることで、正確かつ迅速な経営判断を実現します。

02

業務プロセスの効率化

既存業務プロセスの効率化・自動化を行い、業務時間を圧縮し、開発や提案活動、改善活動などの高付加価値業務への転換を図ります。

03

デジタルマーケティングと データ駆動型営業の強化

Web活用による新たな市場開拓と、蓄積されたデータ分析に基づく最適な設計・供給に向けた提案力を強化します。

具体的な取り組み

01

基幹システムの刷新によるデータ基盤の構築

- スキャン入力の実施による、現場の実績とシステムのリアルタイム同期
- 在庫、案件、原価情報など、各種情報を一元化したデータベースの構築

02

業務プロセスの自動化

- RPAの導入および研修を行い、定型業務を自動化
- 生成AI等の活用を社内報などで情報共有し、業務の効率化と新たなアイデア創出を促進

03

デジタルマーケティングとデータ駆動型営業の強化

- Webを中心とした積極的な情報発信による、新たな市場・新規顧客の獲得
- データ収集・分析の仕組み化による、最適な設計・供給に向けた提案力の強化

DX推進体制



推進体制について

経営トップ直下の強力なリーダーシップにより、部門の垣根を越えた迅速な意思決定を実現します。現場の知恵と外部の専門知識を掛け合わせ、全社一丸となってこれまでにない変革を進めていきます。

DX人材の育成・確保

当社は、DX戦略を推進するため、デジタル人財の育成と確保に取り組みます。

育成

- RPA導入研修やAI活用の情報交換による現場リーダー層のデジタルスキル底上げ
- デジタル化された業務マニュアルの整備による業務標準化の推進
- 全従業員向けの情報セキュリティ教育の定期的な実施
- 新入社員向けの教育体制整備による組織全体のITリテラシー向上

確保

- 部門横断のDX推進体制の構築と各部門へのデジタル人財の配置
- 外部パートナーとの連携体制による専門技術の確保とノウハウ蓄積

ITシステム環境整備、サイバーセキュリティ対策

当社では、DX戦略の確実な実行を支える基盤として、安全で信頼性の高いITシステム環境の整備とサイバーセキュリティ対策を一体的に推進します。

ITシステム環境の整備

基幹システム高度化と現場インフラ拡充

新システムの段階的導入に合わせ、工場内のアクセスポイント増設などのネットワーク環境を整備し、現場データのリアルタイム同期を支える強固な通信基盤を構築します。

最新クラウドサービスの積極活用による拡張性確保

業務効率化や情報共有のスピード向上に向け、安全性に優れたクラウドサービスを導入し、変化に柔軟に対応できるシステム環境を確保します。

サイバーセキュリティ対策

クラウドサービスの選定とバックアップ体制確立

導入するクラウドサービスは安全基準を満たした信頼性の高いものを選定し、さらに定期的なデータバックアップ体制を構築することで、システム障害やデータ紛失などのリスクを低減します。

情報セキュリティ規定の策定と全社周知

最新版のセキュリティ規定を作成して全従業員へ周知徹底を図るとともに、定期的な教育や資産管理等の対策で、組織的な防御体制を強化します。

DX戦略の達成指標

これらの指標は経営層による定期的なレビューを行い、状況変化に応じてDX戦略の適宜見直しを行います。

分類	KPI項目	目標値（3年以内）
DX戦略実施により生じた効果を評価する指標	Web経由の引き合い件数の拡大	2倍に拡大
	年間総棚卸工数の削減	60%削減
	手作業・手入力の削減	50%削減
	社内データ探索時間の削減	60%削減
	納期回答に伴う社内事務・管理工数の削減	70%削減
	受注から出荷指示に係るリードタイム削減	50%削減
DX戦略に定められた計画の進捗を評価する指標	DX人財の確保・育成	社内育成目標 100%達成
	基幹システムの刷新	運用切替100%完了
	納期遵守率の自動計測システムの構築	社内運用の開始
	概算見積システムの構築	社内運用の開始
	サイバーセキュリティ対策の強化	社内規定スコアの100%達成